

五〇〇万県民千葉の記念

ヨーロッパ視察記

県民の翼に参加して

宝 米 平 野 和 夫

千葉県民五〇〇万人を記念して、千葉県青年海外派遣事業「県民の翼」が十月二十九日から十一月七日まで十日間の日程で行われ、古谷県企画部長を団長に、農林、水産、商工、建設、都市、環境、福祉、衛生、文化、青少年の十班、総勢二一五名は、二回の事前研修を終えて二十九日午後、ヨーロッパ各国に向け飛び立ちました。

私は農林班として、フランス、オランダ、西ドイツの三カ国を訪問しました。

フランスではパリのランジス市場の視察と、イルドフランスと呼ばれるパリ近郊一帯を対象とした農林技術研究所のド・フオンテーヌ氏の講演がありました。

ランジス市場は相対取引でセリは行わず、日本のようにその日、その日に売り切る必要もないので、鮮度や品質があまりよくありませんでした。外国から

の品も多く入っておりEC間のつながりの深さがみられました。

農業技術研究所は農民の共同出資でつくられた機関で、二〇〇戸の農家が年額1ha当り45Fを出資、月一回会合を開いて研究や意見交換などを行っているそうです。

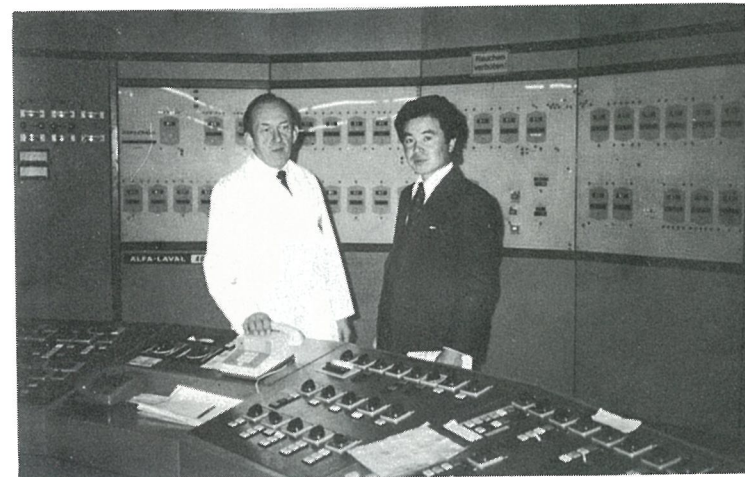
当面の目標は生産コストの下げや、ハイブリットなど新品種の改良で、それらは日本と共通していました。また、平均耕作面積は180haとのことでした。

オランダでは、アールスメア花市場とアルコ農業組合、干拓地を視察しました。花市場はさすがオランダだけあって非常に規模が大きく扱ひ量も多いのですが、コンピューター導入のセリ下げ方式を用いておりスピーディにセリが展開されています。アルコ農業組合は小麦の専門組合で、二万トンのサイロを所有しており、相場をみながら売りさばくのだそうです。このようにオランダではそれぞれ専門

の共同組合が発達しており成果をあげているとのことでした。又、ゾイデル海干拓地は政府の所有で農民にリース（十二年と四十年）しているそうです。綿密に練られた農業政策と長い歴史の干拓事業はとてすばらしいものでした。

西ドイツでは全乳量の90%がこうした共同組合で加工されているとのことでした。又、ここでは酪農家の若い主婦がみえており楽しく交流が計られました。花卉農家と野菜農家では手づくりのお菓子やお酒などでもてなしてもらい、とても感激でした。どちらかと言うとフランスより西ドイツと、だんだん親日的になるようで、そう感じたのは私一人ではない様でした。マシネンリングは、農家の保有機械力の余った分を他農家へ供給しようとするもので、それを登録、仲介する組織とのことでした。

これは価格の高い農業機械を有効に活用することでコストの低減を計るもので、とても参考になりました。以上三カ国を回ってみて、各国の市場のシステムや農業に対する取り組み方、販売の仕方などを知る事が出来ました。規模や政策の違いなどから、すぐにどうこうという訳にはいきませんが、今回の視察で得た知識や考え方をこれからの人生や経営に生かしていきたいと思えます。



西ドイツ 乳業組合のコンピュータールームで説明をうける平野さん

我が国に於ける工業の進歩は著しい。反面現代の農漁業のあり方は近代化にやっと突入した程度、農政の貧困も去ることながら自らの研究開拓心を新たなとする要素は多分にある。たゆまざる努力が実りある田園地方の農業の施策に注目しなければならぬ。

農家が組織を設立し各個の所有する農機具の負担軽減の合理化をめざし、委託農法で成果をあげて活用し、農家の収入益をうるおし伴って工業団地の開発と誘致に行政の協力が必要である。

老齢化する一方の農家の現状は専業農家の減少を多くしているのが今日の姿である。

新たなとする行政のたくましさが必要とし、望むものである。

農業の門外から見た忠言も何かの参考の一途となれば幸いである。

ちよつと一言

県 住 岩田 慶雄